



## 根本を知る

今月、祖母の三回忌の法事を滋賀の自坊にてお勤めする。いつも御門徒の法事を勤める時は、「亡くなった方を縁として我が身を教わるのが御法事ですよ」とお伝えしているのだが、果たして私は祖母の法事を通して何を教わるのだろうか。

二年前の葬儀の時、父親が出棺前の挨拶として、「母親がお浄土へ還りました」と言っていた。浄土とは阿弥陀仏、無量のいのちの世界だと教わる。

言うまでもないことであるが、祖母がいなければ私は存在しない。今、私がこのようにして、ここに在るということを当たり前のようになして生きているが、改めて考えてみると、その根本は祖母だけではなく、先祖、また人以外の様々な物事等、私の思いでは全く及ばない、不可思議なはたらきが、今この私に流れているのである。

普段、目の前の現実には不平不満を言いながら、ああなれば、こうなればと、自分勝手な願いで生きている。そうでなく、様々ないのちに支えられて、今この身をいただいているのである。それがこの私の事実なのである。

思い返せば、仏壇の前で手を合わせ、南無阿弥陀仏と称えるということは、祖母から教わった。阿弥陀仏、無量のいのちに帰れということである。この名号が、私という存在の根本を知らせ、この身の事実を背いている私を照らす、浄土からの声なのである。法事とは、この私に流れるいのちの声を聞く場なのである。

(仲井 真裕 記)



## 仏具磨き、 お疲れ様でした!



3月10日(木)、肌寒い天候の中、7名の方々に「仏具磨き」のお手伝いをいただきました。参加者の皆さんは経験者の方ばかりで、改めて作業の説明の必要も無く、とても手際良く作業をしてくださいました。寒さも気にせず仏具の水洗いをしてくださり、本堂に場所を移して丁寧に仏具を磨き込んでくださいました。お磨きのほかに本堂参詣席の掃除もしていただきました。

午前中の作業が終わり、昼食は恒例のカレーライス。皆様と一緒に美味しくいただきました。

お陰様で「春の永代経法要」には大勢の参詣者にお参りをいただき、綺麗に磨かれた仏具で荘厳された本堂でお勤めさせていただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

(木村 専正 記)

### 【お手伝いくださった方々】 順不同

橘悦子様	金子佳子様
猪口可津子様	柿沼一郎様
谷口博一様	鈴木弘子様
中条啓助様	

## 住職継職奉告法要・就任祝賀会報告

2月14日午前9時30分より本堂に於いて、西徳寺顧問木村俊尚師を会行事に迎え、東京教区法中(東京教区各寺院住職)で出仕のもと、「住職継職奉告法要」が厳粛な中に勤修され脇阪新住職が誕生いたしました。来賓として久遠院様(西徳寺親戚寺院)をお迎えし、各ブロック役員にもご参詣を頂きました。その後、西徳寺顧問中井賢隆師より記念法話を頂戴いたしました。

場所を上野「精養軒」に移し、12時より「住職就任祝賀会」が開宴されました。286名出席の下、酒井眞一責任役員の挨拶に始まり、大谷義博最高顧問、脇阪新住職より挨拶、そして東京教区教務所長の正円寺様より祝辞を賜りました。そして竹内乾一郎評議員会会長による乾杯の発声からはいよいよ賑々しい雰囲気となり、さらには西徳寺混声合唱団「エコー」の演奏が華を添え、祝賀ムードは最高潮に達しました。

朝から荒れ模様の天気が急激に回復し、会場の熱気が伝わったのか、気温も2月とは思えないほどの上昇を見せる中、お開きの時が迫り、合唱団の朝田先生指揮、金澤先生伴奏のもと皆で『恩徳讃』を唱和をしました。そして榎本隆青年会会長より閉会の辞が述べられ、青年会恒例の三本締め場面では青年会会員、職員、教務所長、そして脇阪新住職等々を壇上へと巻き込み、井口秋雄青年会副会長音頭のもと圧巻の300名の三本締めが鳴り響き、力強い船出を感じずにはおれませんでした。

(山崎 哲 記)



## 日誌

2月7日 城東ブロック会聞法会(市川・八幡神社 参加者22名)  
 2月7日・8日 中興忌  
 2月14日 脇阪住職継職法要・就任祝賀会(参加者286名)  
 2月15日~19日 本山・第十一次聞法推進員養成研修会(高橋・仲井参加)  
 2月17日 婦人会聞法会  
 2月20日 定例聞法会、社交ダンス練習会、混声合唱団「エコー」練習  
 青年会主催 蓮井邦宗君・遼子さん結婚祝賀会  
 2月21日 城南ブロック会聞法会(馬込・東京イン 参加者25名)  
 2月23日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗正元師  
 仏教青年会座談会  
 2月24日 責任役員会

2月27日・28日 宗祖忌  
 2月27日 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 高橋淳  
 3月5日 社交ダンス練習会、混声合唱団「エコー」練習  
 評議員会定例役員会  
 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 蓮井 邦宗  
 3月6日 城北ブロック会聞法会 (王子・北とびあ 参加者24名)  
 3月7日・8日 中興忌  
 3月8日 責任役員会・総代会  
 仏教青年会主催ボウリング大会 (参加者22名)  
 3月9日 婦人会聞法会  
 東京教区研修会(木村主任・高橋・仲井参加)  
 3月10日 仏具磨き(参加者7名)



# 親鸞さんのことば

念仏者は無礙の一道なり。  
そのいわれいかんとならば、  
信心の行者には、天神地祇も敬伏し、  
魔界外道も障礙することなし。

『歎異抄』

松井憲一

わたしたちは、人生が礙りのない  
平穩無事な一生でありたいと願って、  
それなりの努力をして生活していま  
す。しかし、現実には、想定外の連続で、  
思うようになりません。体も、人間  
関係も、社会の状況も思うようにな  
らないから、よけいに思うようにし  
たくなりますが、多少の改善はでき  
ても、思いは次から次へとでてきま  
すから、本当の解決はほど遠いこと  
になります。

豊かで便利な生活に慣れると、貧  
しさに耐える能力も弱っていますか  
ら、少し不便になるだけで不平不満  
がつのります。最下層の時は、上がれ  
ないのが礙りでしたが、途中に居る  
と、上がるのも礙りなら、下がるのも

礙りで、じつとしているのもまた礙り  
になります。それだけに、親鸞聖人  
が、「念仏者は無礙の一道なり。（念仏  
は、なにもものにもさまざまげられるこ  
とのない、ひとすじの道です）」とい  
われますと、魅力的で元気がでるの  
ですが、同時にそんなにうまく運ぶ  
かという、疑問も起ります。

それで、念仏者の「者」は、漢文体  
の送り仮名の「は」と理解して、「念  
仏は」と読むのか、それとも念仏す  
る人を指す「者」と読むのか、という  
議論があります。つまり、読み方で、  
南無阿弥陀仏の「法（みのり）」が「無  
礙の一道」なのか、それともその南無  
阿弥陀仏を称える「者（ひと）」が「無  
礙の一道」なのかという、二通りの意  
見です。

しかし、人は、法に遇ってはじめて  
闇が知らされ智慧が開けるのですか  
ら、お念仏の法を離れて人が無礙に  
なるといえば、独断偏見になります。  
かといつて、念仏は無礙の一道とい  
らいつてみても、無礙になった人が誕  
生しなければ、観念になります。法  
を離れて人はないし、人を生み出さ  
ない法もないから、ここは「念仏は」  
と読んでも「念仏者は」と読んでも、

いいのでしょうか。

しかし、わたしたちは、教えを自  
分の都合にあわせて読みますから、  
「念仏者は、無礙の一道なり」と自認  
して読みたいときは、あえて「念仏は、  
無礙の一道なり」と読み直してみる。  
そして、「念仏は、無礙の一道なり」と  
自分抜きに読みたいときは、「念仏  
者は、無礙の一道なり」と読み直す。  
そのように二通りに読むことで「無  
礙の一道」が、いま念仏をもうしなが  
ら、無礙になつていない自分に刻々  
と響いて、礙は自分にあることが明  
瞭になり、ますますお念仏の尊さに  
出遇えるからです。

念仏者は、阿弥陀仏の智慧の念仏  
に照らされて、自分の闇に気づかさ  
れた人のことです。だから、お念仏す  
ると、礙りは自分が創り出した妄想  
であることが次々と暴露され、深い  
懺悔となります。それが、「信心の行  
者」です。それで、聖人は、「そのいわ  
れいかんとならば、信心の行者には、  
天神地祇も敬伏し、魔界外道も障礙  
することなし。（なぜかという、本  
願を信じて念仏する人には、天の神、  
地の神も敬い、悪魔や異教の人々も  
さまざまをしません）」といわれます。



念仏者は、天神地祇や魔界外道ま  
でも頼りとして礙りをなくそうとす  
るとき、その原因が天地に支えられ  
ている事実には気づかない自分にあつ  
たと、大地にひれ伏した信心の行者  
です。この大地に五体投地した念仏  
者の姿に、よくぞ天地の力を感じ取  
り、不幸が重なっても魔界外道を利用  
しないでいてくれたとの感応が、  
「天神地祇も敬伏し魔界外道も障礙  
することなし」といわれる内容なの  
でありましょう。



# 山門の言葉

## 喜びは 自分を忘れることにある

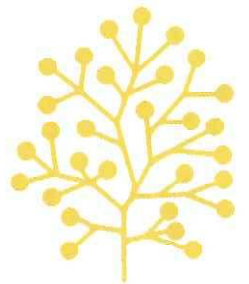
アン・サリバン

日本では「奇跡の人」と称されるヘレン・ケラーを献身的に支えたのは、家庭教師のアン・サリバン女史である。彼女は「三重苦」に喘ぐヘレンと共に葛藤し、血の滲むような努力の末、どうにか話すことができるまでになった。

サリバン女史は幼少の頃、「トラコーマ」という眼病により失明し、母親と弟も失い、アルコール依存症の父親が育児放棄した為に救貧院に預けられることになる。後に数回の手術を受けるが、弱視の状態に戻すのが精一杯だったという。

彼女はパーキンス盲学校を卒業した後、ヘレンの家庭教師になるのであるが、ある意味ではヘレンに勝るとも劣らない苦境の中を生きただけである。そんな彼女がなぜ他人のために人生を捧げるような生き方ができたのだろうか。

『仏説観無量寿経』に、阿弥陀仏に出遇った韋提希夫人が、未来世の人々の行く末を案ずるようになる。



人間は自分のことで手一杯で、人のことなど心配する余裕などほとんどない。たとえ他人を心配しているといつても、自分の損得勘定で計算するのが関の山である。では、私が仏様に遇うということは如何なることなのだろうか。

我々の喜びとは、実は個人的な自己満足でしかない。閉鎖的で他人との隔絶の中で生きている。こんな私のために仏は、私以上に悲しみを抱えながら、私を育て、念じ続けてくださる。そういう人の人生に出遇うことによって、はじめて独りよがりの人生から解放されていく。自分を捧げる人生に喜びを見いだされた、「奇跡の人」とはまさにサリバン女史のことではないだろうか。

(木村 専正 記)

## えこお志お礼

大阪府 最勝寺 様  
新潟県 梵行寺 様  
品川区 木原 麗子 様  
北区 小山 光子 様  
大阪府 脇阪 義仁 様  
川口市 野尻 静子 様  
さいたま市 井上 實 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



# おとしじ 婦人会だより

第 319 号



## 🌸 ～標語カレンダーに聞く～ (2016年4月号)

### 「信心ひとたびおこりなば 煩惱を断たで涅槃あり」

「執着」するから悩む私たち。趣味・家族・仕事・友人・・・確かなものを求めながらも当てが外れる人生。ふと、「執着心が無くなったらどんなに楽になれるか」、そんなことを一瞬感じてまたその世界に埋もれていくことの繰り返しだ。人生が執着の連続で死ぬまで消えない。

親鸞聖人は執着心を消すことが涅槃ではなく、消せないという身の事実に出遇うことが涅槃だと教えられる。これがいのちの事実である。だからこそ仏様と共に歩む人生がひらかれるのだろう。

この事実が明らかになるまでどれ程の人々の人生があるのだろうか。「賜る信心」とは無数の人々の人生から教えていただくことではないだろうか、「事実が気が付かせていただくことが肝要だ」と。

(山崎 哲)

## 🌸 婦人会総会・懇親会のご案内

日時 平成 28 年 4 月 27 日(水) 午前 11 時  
場所 総会 本堂  
懇親会 梅檀の間  
会費 無料  
締切 4 月 20 日(水) ※お弁当予約のため、必ず申し込んで下さい。  
年会費 3,000円



※懇親会は古今亭菊龍師匠の落語です。会員の方はどうぞご参加ください! (略歴: 1952年横浜市生まれ1973年古今亭圓菊に師事。1978年二つ目昇進、1987年真打昇進)

## 🌸 次回聞法会のご案内

日時 平成 28 年 5 月 25 日(水) 午後 1 時～ 3 時  
場所 西徳寺 星月の間  
法話 標語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)  
「陸路のあゆみ難けれど 船路の旅の易きかな」  
最高顧問 大谷 義博・山崎 哲

## 🌸 ひとつと

花や緑を守り、育てる活動を区と一緒に、地域の緑化を推進するボランティア組織「グリーン・リーダー」の会員として 4 年が経ちました。上野駅前ジュエリーブリッジ花の植替え、園芸講習会、施設見学会……。一昨年秋には海の森へ行って、苗木を植樹して参りました。東京オリンピック開催の頃には昆虫や鳥、動物たちが集まって憩いの場になっていると思うと再度行きたいと思えます。

ベランダには、種まきから始めた小松菜、スナックえんどう、はつか大根が暖かい日差しの中生育し、収穫できる喜びを待っております。

(鈴木 弘子)



海の森(東京湾の真ん中にあります)東京湾に浮かぶゴミで埋め立てられたゴミの山に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせるプロジェクト。



# 掲示板 平成28年4月

- 9日(土) 午後6時 同行会総会  
「現代の聖典」に聞く 法話 大谷 義博
- 13日(水) 午後7時 イナンナの冥界下り 上演
- 16日(土) 午後1時半 定例聞法会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 21日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く 講師 宗正元師
- 23日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 脇阪住職
- 26日(火) 午後7時 仏教青年会総会
- 27日(水) 午前11時 婦人会総会
- 30日(土) 午後1時 社交ダンス練習会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」総会・練習

## 城東ブロック会聞法会

去る2月7日(日)、市川・八幡神社社務所におきまして、会員22名の参加をいただき、聞法会を行いました。今回も皆さんと、会員である逆井さん手作りのおぜんざいに舌鼓を打ちながら、『正信偈』の「次第相承」というところについて学ばせてもらいました。大谷顧問は法話の中で、「南無阿弥陀仏はいのちの願い。しかし私たちは何を願われているかが分からない。その願いを聞いていくのが聞法なのだ」と話されました。また質疑では生活の中で感じる素朴な疑問から、親鸞聖人のお言葉についての質問があり、懇親会では会員さん同士の会話も弾み、時間が足りない程でした。

次回は**6月26日(日)、人形町香港美食園**におきまして総会・聞法会を行う予定です。初めての方でも遠慮なく参加下さい。皆様のご参加をお待ちしております。(仲井 真裕 記)



## 城南ブロック会聞法会

去る2月21日(日)ホテル東京イン(大田区・馬込)にて、第90回聞法会を開催し、初参加者1名を含め20名の方にご参加頂きました。今回は昨年12月に就任されました脇阪住職をお迎えしての聞法会となりました。

今後は新たな体制で臨むこととなりますが、これからも少しでも多くの方に城南ブロック会にご参加頂きたいと思っております。

次回は**平成28年5月15日(日)「大井町きりあん」**にて開催致しますので、お気軽にご参加下さい。(大橋 伊知郎 記)



## 同行会新年会

去る1月23日(土)5:30より西徳寺本堂にて24名参加のもと、恒例であります同行会新年会が開かれました。勤行の後、安藤会長からは聞法こそが真宗であり、同時に聞くということは本当に難しいとのお挨拶を頂きました。引き続き、脇阪住職からは会員が聞法に勤しまれていることはすばらしいというお挨拶を頂き、大谷最高顧問からは脇阪住職のご紹介とともに、今後も共に学んで参りたいというお挨拶を頂きました。

その後、梅檀の間に場を移した懇親会では、皆様から近況や抱負を伺いました。またお一方、初参加の方がお越しになり、いつもにも増して賑やかな新年会となりました。(山崎 哲 記)

## 青年会主催ボウリング大会

去る3月8日(火)に、青年会主催のボウリング大会が行われました。会員の榎本貴幸さんによる始球式によって開会し、それぞれハイスコアを目指して楽しく投げられました。

決して一人一人バラバラに楽しむのではなく、他の会員さんがストライクを出すと一緒に喜び、ガーターを出すと励まし合っておられたのがとても印象的でした。結果はそれぞれでありましたが、終始笑顔の絶えないボウリング大会となりました。(高橋 淳 記)



## 城北ブロック会聞法会

去る3月6日(日)、王子・北とびあにおきまして、城北ブロック会聞法会を開催いたしました。今回は初参加4名を含む、24名の会員の方に出席していただきました。

法話の中で大谷最高顧問から、「自分では今がちょうどよいとは思えず、絶えず何かを求めて生きている。そういう私たちに、実はちょうどよいただ中を生きていると照らし出してくださるのが、南無阿弥陀仏である」と教えていただきました。

懇親会では、参加者の方から一言ずついただき、より一層親睦を深められ、大いに盛り上がりました。

次回は**平成28年6月12日(日)、川口文化センターリリア**におきまして総会・聞法会を開催いたします。テーマは「龍樹菩薩 二〜一切が救われていく道〜」です。お誘い合わせの上、大勢の方のご参加をお待ちしております。(蓮井 邦宗 記)



## 編集後記

4月8日は花まつり、お釈迦さまのご誕生をお祝いする仏事です。本来は灌仏会や降誕会といわれ、花まつりと呼ばれるようになったのは明治以降のことだそうです。

お釈迦さまの誕生については、『仏説無量寿経』に「吾当に世において無上尊となるべし」とあります。無上尊とは自分が尊いということではなく、どのような人であっても、誰とも比較できない、かけがえのない存在であることをあらわし、私達にそのいのちの尊さに目覚めていく道をあきらかにされました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

**HP** <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

**✉** [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)